叡智のフロンティア部会 発表概要

2012年3月5日

高木美香

発表の要点

- 1) 過去の部会における議論を踏まえる。
- 2) 「叡智とは何か」から、「叡智をどう活用するか」へ。
- 3) 「現状の問題点」から、「未来に向けた方策」へ。

論点1：「既知の世界」から「未知の世界」へ

→場所、時間の使い方を柔軟にする。

- ・場所：建築基準法、道路交通法
用途制限は都市計画上大切である一方、職住近接にとっては制約。
(例：東京湾岸)
交通規制もうまく活用すれば街の活性化や観光誘致につながる。
(例：銀座ファッションショー)
- ・時間：教育と採用、就労規則の慣習
大学の秋入学－ギャップイヤー／早期卒業－企業の通年採用は一体で。

論点2：「上意下達」から「集合知」へ

→徹底した情報公開と議論への国民参加、未来の可視化を進める。

- ・政府の会議への国民参加促進
熟議の他にも、政府の会議を全面公開し、国民が参加出来るようにすべき。
(例：ニコニコ動画)
- ・各種公的情報の公開
加工可能な情報にすれば誰かがアプリケーションをつくる。
(例：東電の電力使用情報、欧米のデータチャレンジ)
- ・公的機関の予算執行の可視化
行政事業評価、国の予算、NPOの決算などを情報化すべき。

(例：USAspending、UK Where does my money go?)

- ・未来のビジョンの検索可能化
研究者の論文を取得可能にすべき。
(現状は大学に所属していないと取得が困難)

※これらは新しい産業(ソフトウェア、通信機器、デザイナー等)も生みだす。

論点3：「分類」から「編集」へ

→日本を編集し、伝え、届ける

- ・クール・ジャパンを支える情報と人のネットワーク
特定商品ではなく、多様な日本を伝える情報ネットワークが重要。
(例：ソーシャルメディアの活用)
- ・編集者の育成
国を超えて編集をし、伝える「人」を支援すべき。
(例：文化勲章を外国人に／留学奨学金の充実)
- ・海外からの多様な人材の受入
外国人が日本で学べるよう門戸を広げるべき。
(日本食の料理人としての外国人向け就労ビザが不在)

論点4：「規模の経済」から「個性の経済・社会」へ

→クリエイティブ・シティの推進

- ・固有資源を引き出す持続可能な仕組み作り
地元の発意と創意、多様な市民の連携が重要
(従来制度は金太郎飴化を助長)
- ・コストではなく、未来への投資としての公共調達
学校、公園、駅などの公共投資において地元のデザイナーを活用すべき
(例：ユニバーサルデザイン都市)

まとめ

未来ビジョンに向けて叡智と創造性を活用する社会実験を実施すべきでは？